

事業名称	津波被災地での文化における「より良い復興」のための文化創造活動		
実行委員会	牡鹿半島・思い出広場実行委員会		
中核館	東北学院大学博物館		
	住所	〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1	
	TEL	022-264-6920	FAX 022-264-6917
	ホームページ	<a href="http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/">http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/</a>	
構成団体	国立民族学博物館・石巻市教育委員会・石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館・東北大学建築学研究室		
事業開始時点の課題分析	東日本大震災の被災地は、発災から8年目の「復興・創生期間」にあたり、本事業の実施地域である石巻市及び牡鹿半島地域には、平成30年度末に複数のミュージアムが復旧・新設される。現在行われている嵩上げ工事の土地には生活再建と地域発展の基盤づくりのための諸事業が進んでいるが、ソフト面での復興、すなわち地域文化の醸成や新たな文化創造、歴史や伝統文化の見直しなど、文化における復興については低調である。復興していく地域のすがたが、被災前の風景とまったく異なるものとなっていく状況のなかで、人々の歴史や文化に対する関心は非常に高まっている。「復興・創生期間」にこそ、地域の文化財等を活用した文化創造活動が求められる。		
事業目的	東日本大震災から復興していく地域において、地域住民が歴史や文化を活用してまちづくりにいかし、文化的な意味での「より良い復興」のかたちを、博物館活動から創り出すことが本事業の目的である。文化的な意味での「より良い復興」とは、①関心の醸成（人々が災害以前よりも地域文化に深い関心を抱くようになる）、②文化資源へのアクセス（文化財や文化資源を災害以前よりも文化創造活動に活用しやすくなる）、③コラボレーション（災害後の復旧期において構築されたさまざまな住民団体や組織の連携のかたちを復興期の文化創造活動にいかす）の3点ととらえる。そのために、博物館活動を展開する。		
事業概要	<p>1. 市民との協働による地域資源発掘のための展示会 住民参加の文化財調査を実施し、大学生と地域住民で地域の魅力再発見のための共同作業を行う。その内容をもとに展示会を開催し、地域住民に地域文化を再認識してもらう。</p> <p>2. 子どもたちと大学生による地域資源発掘のためのワークショップ 高齢者福祉施設で小学生と大学生による聞き書きを通じた思い出のエピソードの掘り起しを行う「思い出広場」を実施し、そのデータを用いて小学生と大学生がともにつくる地域学習ツール「MINGUカード」、地域で文化創造活動に関わってきた人々と地域住民団体との協働による「おしかぐらし絵本」の作成を行い、移動博物館による活動を実施する。</p>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館  <input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携  <input type="checkbox"/>イ ユニークベニユーの促進  <input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館  <input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信  (2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動  <input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成  <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発  <input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施  <input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業  (3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館  <input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動  <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、東日本大震災における文化財レスキュー資料や震災後に再認識された歴史資料・民俗資料を活用して行う文化創造活動を通じて、ミュージアム的な手法（市民参加による調査活動や展示・ワークショップ等の普及活動）によって復興まちづくりに貢献することを目的とした。</p> <p>1. 市民との協働による地域資源発掘のための展示会  平成30年8月～10月にかけて実施した、大学生と被災地住民の文化活動グループ及び地域住民との協働による、地域の魅力再発見のため資料調査活動には、のべ40名が参加した。その内容をもとに、10月末～12月初旬にかけて実施した文化財レスキュー企画展「クジラお宝珍物館」には、石巻会場となる「石巻市指定文化財旧観慶丸商店」には約400名、仙台会場となる東北学院大学博物館には約150名、合計550名が来場した。</p> <p>2. 子どもたちと大学生による地域資源発掘のためのワークショップ  大学生と小学生による地域文化の共同調査には、大学生のべ20名、小学生のべ19名が参加した。その調査内容をもとに脚本化した大学生と小学生による演劇「牡鹿昔ばなし」の上演（移動博物館）には、石巻市立鮎川小学校での公演では地域住民約50名、介護老人保健施設おしか清心苑での公演では、入所者約30名が観覧した。</p> <p>両事業の実施により、地域文化の魅力再発見に対する関心が高まっただけでなく、文化創造に関与する諸アクターの連携を構築することができた。</p>

**【事業実績】**

1. 市民との協働による地域資源発掘のための展示会

8月～10月にかけて大学生と被災地住民の文化活動グループ「鮎川の風景を思う会」、「牡鹿地区復興応援隊」メンバー及び地域住民とともに、石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館を拠点に、地域の魅力再発見のため資料調査活動をのべ40名の参加を得て実施した。また、その内容をもとに、10月末～12月初旬にかけて、文化財レスキュー企画展「クジラお宝珍物館」を石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館、石巻市教育委員会所管石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」及び東北学院大学博物館で巡回展示を行った。この事業における来場者は、石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館での展示は100名、石巻市教育委員会所管石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」での展示は

400名、(そのうちワークショップ「へんてこコラージュを作ろう」(11/3・4)参加者は60名)、東北学院大学博物館での展示には150名が来場した。

なお、3ヶ所の巡回展示において、国立民族博物館(吹田市)から展示資料の一部を借用する予定であったが、国立民族博物館において、2018年6月に発生した大阪府北部地震による展示資料全ての被災状況を確認する必要が生じ借用手続きが進まず、これにともない、石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館での展示は、国立民族博物館以外の別構成の展示をし、国立民族博物館から借用した展示資料は石巻市教育委員会所管石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」と東北学院大学博物館の2か所の展示となった。

## 2. 子どもたちと大学生による地域資源発掘のためのワークショップ

7月～2月にかけて大学生と小学生がチームとなって高齢者に聞き書きを行う共同調査を3回実施した。大学生と小学生による調査では、大学生のべ20名、小学生のべ19名が参加した。

その内容をもとに、地域学習ツールとしての民具カードの作成、成果の地域への普及と還元のための演劇「牡鹿昔ばなし:さるの人まね」の脚本づくり、稽古、小道具づくりのための民具調査などを行い、演劇「牡鹿昔ばなし:さるの人まね」の公演を、10/13に石巻市立鮎川小学校にて、12/12に介護老人保健施設おしか清心苑にてそれぞれ実施した。大学生と小学生による演劇の上演(移動博物館)には、10/13の石巻市立鮎川小学校での公演では地域住民約50名、12/12の介護老人保健施設おしか清心苑での公演では、入所者約30名が観覧した。

加えて、共同調査成果の地域へのフィードバックのための媒体として、絵本「おしかがえし:ぼくがであったむかーしむかし」を作成し、地域住民に無料配布した。

以上